

当委員会の本年度上半期のHDD工法普及拡大にむけた活動状況を紹介する。

■HDD工法施工事例集

予定よりも遅れていたHDD工法施工事例集の編纂がようやく完了し、印刷を残すのみとなった。おそらく本誌がお手元に届く頃には製本も終わり希望者に配布できるようになっているはずである。

HDD工法については、未だにどのような工法であるのか、どんな施工ができるのかといった基本的なことが意外と知られておらず、それが普及の障害となっているという思いがあった。そこで、HDD工法を直感的に理解してもらうことと、その良さや意外な適用範囲などを知ってもらうために、施工実績表にくらべて掲載件数は少ないながら、施工写真や図面を掲載することにより、直感的に本工法をイメージしてもらえる資料をめざし編纂に着手した。

掲載件数は45件ほどであるが、できるだけ多くの適用分野、管種を網羅し、かつ厳しい条件下での施工などの、いわば特殊施工例もあわせて掲載することにより、本工法の利点を具体的に示す資料とすることが出来たと考えている。

当初は5月ごろの発行を目標としていたが、本工法の特徴や利点をよりわかりやすく理解してもらえるように、施工事例を厳選する作業を実施したため、発行までに3ヶ月程度の延期を余儀なくされた。しかしその分、内容が充実し、よりよい資料となったと自負している。

さらに、使いやすい事例集とするために、製本版だけではなくCD-ROM版での提供も予定している。

CD-ROM版では、掲載事例のリストがエクセルのファイル形式で提供されるが、リストから当該の事例本文にリンクが張っており、クリックひとつで見たい事例にジャンプすることが出来る。また、リスト上で用途、管種、土質といったさまざまな条件で並べ替えや抽出が出来るようになっており、例えば用途がガスの事例だけを見たい場合には、ガスを選択することでガスの事例のみのリストを抽出可能である。

本事例集は、JSTTのホームページや工法ナビシステムへの掲載も検討中であり、より多くの人が簡単にアクセスできるようにする予定である。

■その他の活動内容

施工事例集の完成に引き続き、新たに二つのワーキングを立ち上げた。

ひとつは、新工法普及の際に必ず課題となる従来工法

とのコストの比較である。HDD工法のみならず非開削工法全体にとって、開削工法とのコスト面での優劣は永遠のテーマといってもよい。

昨今、浅層埋設が認可されるようになって、HDD工法のコスト面での優位性が薄れつつあるのが現状であるが、直接工事費だけではなく、交通障害による渋滞の発生や、それに伴う二酸化炭素発生量の増大といった、いわゆる社会的コストまで考慮した比較検討を行いたいというのが究極の目標である。

そうは言っても、お金に換算できないもしくは換算することが難しい社会的コストを、どのように評価し本工法の優位性の証明につなげていくかは、大変に重たい課題である。これについては学識経験者の皆様やJSTTの諸先輩方のご指導を仰ぎつつ、少しずつでも目標に近づいていきたいと考えている。

いまひとつは、これまで各工法協会で行っていた施工管理項目の選定と施工データの収集を出来る限り共通化し、HDD工法全体の標準化と施工技術のレベルアップにつなげようという試みである。施工管理基準の標準化と施工データの蓄積による施工技術の向上が、HDD工法の採用のしやすさや、新たな用途の開発、さらにはわが国に適した機械や施工方法の開発につながっていくと考えている。

本委員会では、本年度の下半期、前々号で紹介した積算資料の改訂と、上記の新たなワーキングをベースに、HDD工法の普及活動を推進していく予定である。

